

もだんだん豊かになっていきました。しかし、リンの心の中には、あのはげしかつた会津の戦争、夫とわかれわかれになった生活、戦後の会津の人々のみじめなくらしが、どうしても忘れられませんでした。自分たちの生活が楽になり、にぎやかになっていくとともに、今まで親しんできたふるさとの人々の悲しさが思われてなりません。

保母への道

明治二十一年（一八八八年）三月、リンは教会で洗礼をうけて、キリスト教徒になりました。会津藩のもと家老、海老名季昌のしとやかな妻が、それまで切支丹とよばれて迫害をうけていたキリスト教徒に変わっていったのです。リンの一生は、これをきっかけとして大きく変わって行くのです。